

第1学年道徳学習指導案

平成31年 2月 6日 (水)

生徒数 女子 4名

指導者 教諭 塩見友子

- 1 主題名 調和のある生活 【A(2) 節度・節制】
- 2 資料名 「私の反抗期」(出典:あすを生きる1 日本文教)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値

本主題は、内容項目A(2)「望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする事」をもとに設定したものである。

現代社会においては環境や生活様式の変化も大きく、情報機器の発達により若者の欲望や衝動を刺激するものも少なくない。また、「反抗期」と言われる発達段階の生徒たちは、自分の思いと行動の矛盾や変化に戸惑い、時には「わがまま」と言われる行動をしてしまう。そこで、自分の生活や周囲の人々との関わりを見つめ直すことで、心身の調和のある生活の大切さに気付かせ、自己の人生を豊かにするために、節度を守り、望ましい生活習慣を確立していこうとする態度を養うことが必要である。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は4名の少人数学級である。少人数ではあるが、お互いの良さを認め、何事に対しても一致団結して取り組むことができる。しかし、自分の思い通りにならないことがあると、周りの状況を考えることができず、「嫌だ。」や「したくない。」など思ったことをすぐに口に出してしまう生徒もいる。その一言で学級の雰囲気が悪くない方向へいってしまうこともある。これから思春期を迎え、心身ともに著しい発達を見せる反面、心と体のバランスがとれなくなってしまうことも出てきたり、自分でもなぜかわからないイライラ感や焦燥感に襲われ、その気持ちを整理できず、自己嫌悪に陥ることも予想される。また、これまで身に付けてきた望ましい生活習慣が頭では大切であると理解しつつも、素直に受け入れることができず、周りに対して反発や抵抗を態度に出してしまうこともある。

本時では、「反抗期」を悪い方に捉えるのではなく、誰もが一度は通る通過点であるとともに、周囲に迷惑をかけないように、反抗期を過ごすためにはどうすればよいか自分の態度や行動を振り返らせながら考えさせたい。

(3) 資料及び指導の方策

本資料は、「反抗期」を迎えた主人公が、家庭内でのささいな出来事をきっかけに、冷静に自己の言動を振り返ろうとする姿勢が丹念にかかっている資料である。

したがって、主人公と同じように「反抗期」を迎える生徒たちに、自分の行動と照らし合わせながら、節度を守り、調和のある生活習慣をもつことの大切さについて考えさせることで、「反抗期の乗り越え方」について学ぶことは、大変意義のあることだと考える。

指導にあたっては、導入場面で、具体的な質問で生活場面を振り返り、「反抗期」に対する課題意識を高め、価値への方向付けを行う。

展開前半場面では、資料の前半を読み、主人公の行動や気持ちに共感させる。そして、学習課題である「反抗期に、どうすればよりよい生活が送れるのか。」について話し合いながら、自律的な生活ができるようになってきていることは認めるも、楽をしたいという誘惑に負けて人に甘えてしまい、節度が守れず、生活習慣を崩してしまうことの心身に対する課題にも気付かせたい。

展開後半場面では、資料の後半を読み、主人公や母親の立場になり、多面的・多角的に解決の方法を考えることで、自分自身の今後の在り方を考えさせたい。

終末の場面では、教師自身の経験談を話し、誰もが一度は通る通過点であり、節度を周りと調和しながら生活することの大切さを伝えたい。

4 本時の学習

(1) ねらい

「反抗期」を迎えた主人公が冷静に自己の言動を振り返ろうとする姿勢やそのときの気持ちを考えることを通して、心身の調和のある生活の大切さに気付き、節度を守る生活習慣を進んで身に付けようとする態度を育てる。

(2) 研究の視点

- ① ねらいと評価の一体化がなされた指導ができているか。
- ② 生徒が主体的に課題解決に取り組む発問がなされているか。
- ③ 効果的な言語活動がなされているか。

(3) 展開

過程	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価等
導入 5分	1 「反抗期」についてイメージをもち、話し合う。	○最近イライラしたことはありますか。 ・ある。 ・ない。 ○どんなときにイライラしますか。 ・怒られたとき。 ・勉強や部活でうまくいかないとき。 ・宿題をしてるとき。 ○イライラした後、どうしましたか。 ・ものに当たった。 ・親とけんかになった。 ・文句の言い合いになった。	○質問の結果から、「反抗期」について考えることで、本時の学習課題につなげる。
めあて：反抗期に、どうすればよりよい生活が送れるだろう。			
展開 40分 (10)	2 資料の前半部分(1枚目)を読んで、考える。	○『お母さんありがとう。』なんて、これっぽちも思わないのはなぜだと思いますか。 ・当たり前と思っているから。 ○「なくしたと思った数学のプリントが出てきたときの主人公はどんな気持ちだったと思いますか。」 ・やばい。お母さんのせいじゃなかった。 ・どうしよう。 ○この後、どうしたと思いますか。 ・黙ったままにした。 ・見つかったことを話し、素直に謝った。	○母親が大切な存在であると分かりながらも、「当たり前」という意識があることを気付かせる。 ○プリントがなくなったのを母親のせいにしていたのに、見つかったときの焦りや恥ずかしさを感じさせる。 (ワークシート)
(15)	3 資料の後半部分(2枚目)を読んで考える。	○「主人公は、なぜ素直に『プリントな、机の上にあってん。』と言ったと思いますか。」 ・本当は自分が悪いのに、お母さんのせいにして悪かったと反省したから。 ・お母さんのせいにして恥ずかしいと思ったから。 ・私が悪かった許してほしい。	○主人公の気持ちになることで、冷静に自己の言動を振り返ろうとする主人公の姿勢に気付かせたい。 ○追発問「あれほど反抗していた主人公の気持ちを変えたものは何だったのか」をする。 (ワークシート)

(15)	4 反抗期に、どうすればよりよい生活が送れるか考える。	◎「もし、反抗期に、イライラしてしまったらどうしようと思いますか。」	【 評 価 】 心身の調和のある生活の大切さについて自分事として考えることができたか。 ○主人公の例で確認し、その後自分だったらと言う視点で書かせる。 (ワークシート)
終末 5分	5 教師の説話を聞く。		○「わたしたちの道徳」p10の詩を読んで聞かせ、節度・節制に関わる思いや願いを膨らませる。

(4) 評価

「反抗期」を迎えた主人公が冷静に自己の言動を振り返ろうとする姿勢やそのときの気持ちを考えることを通して、心身の調和のある生活について、自分事として捉える中で考えを深めることができたか。